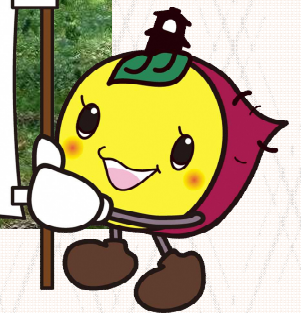


# 2050年脱炭素社会の実現 に向けて

川越市は、恵み豊かな地球環境を将来世代に引き継ぐため、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」の脱炭素社会の実現を目指し、地球温暖化対策に取り組むことを表明します。



力をあわせ、  
脱炭素社会を目指そう！



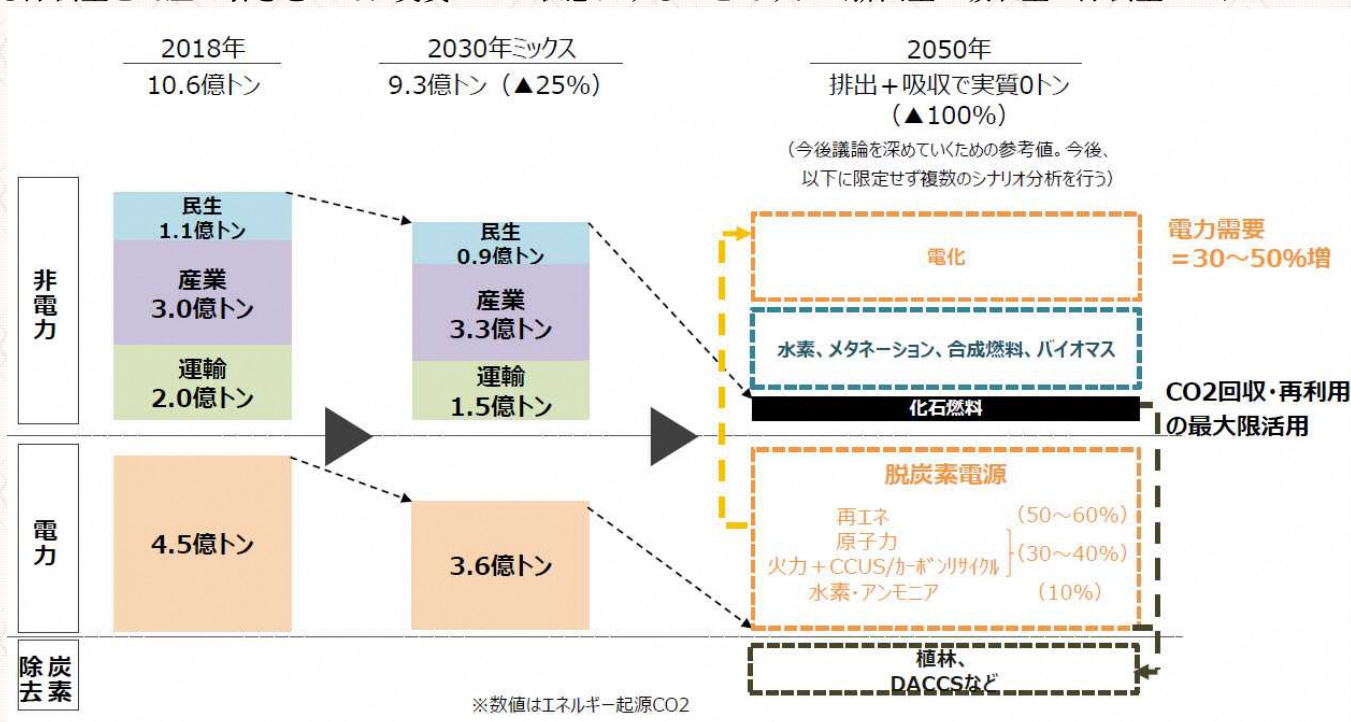
令和3年5月  
川越市

川越市イメージキャラクター  
ときも

## 【国の動き】

### ○2020年10月、内閣総理大臣がカーボンニュートラルを宣言

※カーボンニュートラルとは、二酸化炭素の排出削減に最大限取り組んだ後、どうしても排出しなければならない二酸化炭素の排出量を森林等による二酸化炭素吸収量や二酸化炭素を回収して貯留する技術による除去量とで差し引きをして、実質ゼロの状態にすることです。（排出量－吸収量－除去量＝0）



出典：経済産業省「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」

## 【川越市の地球温暖化対策】

平成8年に始めた「1%節電運動」から継続して省エネルギーに取り組み、併せて再生可能エネルギー設備を積極的に導入してきました。

現在は、「第三次川越市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に基づき、地球温暖化対策に関する施策を総合的かつ計画的に推進しています。

### ～ これまでの主な取組 ～

#### ○川越市地球温暖化対策条例の制定（平成19年12月）

★地球温暖化防止に関し、市、事業者、市民、民間団体、滞在者の責務を規定

#### ○省エネルギー推進事業

★エコ・カジュアルマンス（川越版クールビズ）、  
エコ・重ね着マンス（川越版ウォームビズ）、  
ノー残業デーの一斉消灯等による節電対策 など

#### ○再生可能エネルギー普及推進事業

★再生可能エネルギー機器等普及促進事業補助金交付事業  
補助制度により、住宅用再生可能エネルギー機器等の普及を促進しています。  
対象設備：太陽光発電システム、太陽熱利用システム、エネファーム、蓄電池

★公共施設における再生可能エネルギー導入事業（令和2年度末現在）

- ・太陽光発電システム 88施設（市立小中学校は全て）1,501.8kW
- ・地中熱利用設備 1施設（ウェスタ川越）

★大規模太陽光発電（土地貸し）事業

- ・民間事業者が、資源化センター第1調整池に708.74kWの太陽光発電設備を設置・運営

再生可能エネルギー普及推進事業による太陽光発電設備の二酸化炭素排出量削減効果

**年間約9,714t-CO2削減**

※二酸化炭素1トン为例えと、  
・サッカーボール 約10万個  
・25mプール 約1.4杯分  
・約72本のスギの木が1年間に吸収する量に相当します。



## 【家庭でできる地球温暖化対策】

ご家庭でも身近な事から地球温暖化対策に取り組みましょう。

～暮らしの中で工夫しましょう～

- ・ エアコンの設定温度を調節し、室温を適度に保つ。
- ・ 使わない照明や電化製品はスイッチを切る。
- ・ 冷蔵庫の設定強度を変更したり、物を詰め込みすぎない。
- ・ お風呂には冷めないうちに続けて入る（できるだけ追い炊きしない）。
- ・ 車を運転する際は、エコドライブを心がける。

～環境に配慮した物を選びましょう～

- ・ 太陽光発電などの再生可能エネルギー設備
- ・ 省エネ性能の高い家電製品
- ・ 電気自動車などの次世代自動車
- ・ 高断熱窓
- ・ グリーン購入法に適合した商品



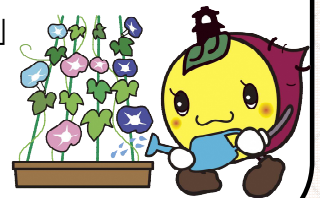
出展：環境省「こども環境白書2012」

～ごみを減らしましょう～

- ・ 3R（リデュース、リユース、リサイクル）を心がける。
- ・ ごみの分別を徹底する。
- ・ 生ごみを捨てるときは、水分を切る。（ごみ焼却時のエネルギー削減）
- ・ 食品は必要な分だけ買って、食品ロスを減らす。
- ・ 買い物はマイバッグを利用して、プラスチックごみを減らす。

～身近な緑を大切にしましょう～

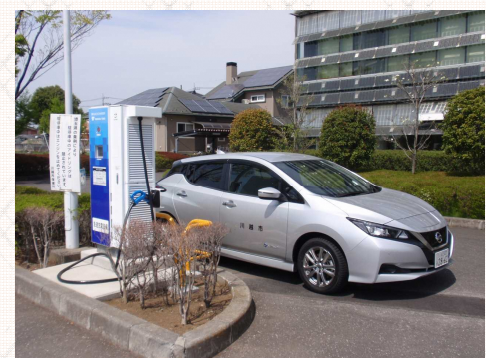
- ・ 敷地内に緑を増やす。
- ・ 緑のカーテンに取り組む。
- ・ 市の「保存樹林・樹木」や「市民の森」、「公園」の緑を大切にする。
- ・ 緑の保全活動（募金活動等）に参加する。



## 【2050年脱炭素社会実現に向けた主な取組】

- ・ 公共施設の省エネルギー化の推進  
⇒道路照明灯LED化（令和3年度事業着手）  
道路照明灯の年間電力使用量 約75%削減見込み  
※年間約795t-CO<sub>2</sub>の排出量削減

- ・ 公共施設での再生可能エネルギー利用推進
- ・ 公用車への次世代自動車（電気自動車、ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車等）の導入推進  
⇒公用車に電気自動車15台導入（令和2年度）  
年間ガソリン使用量 約6,465ℓ削減見込み  
※年間約15t-CO<sub>2</sub>の排出量削減



（令和2年度に導入した電気自動車と急速充電器）

- ・ 川越市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の見直し  
※国の地球温暖化対策計画の見直しに合わせ実施予定

- ・ 市民、事業者等の地球温暖化対策を促進  
⇒再生可能エネルギー機器等普及促進事業補助金交付事業による再エネ・省エネ機器の普及拡大  
⇒統一省エネラベルの表示による省エネ性能の高い家電製品（エアコン、照明器具、テレビ、電気冷蔵庫、電気冷凍庫、電気便座）の普及促進



統一省エネラベル  
（出典：資源エネルギー庁「2020省エネラベルガイドブック」）

# 小江戸かわごえ 脱炭素宣言

～ 2050年脱炭素社会の実現に向けて ～

近年、地球温暖化に起因すると言われている気候変動の影響により、国内外で深刻な自然災害が多発しています。

このような現象は、本市においても例外ではありません。多くの河川に囲まれ、過去には、江戸との舟運により産業の発展等の恩恵を受けてきましたが、近年は、河川の氾濫による浸水など、甚大な被害を受けています。このまま地球温暖化が進めば、気候変動などのリスクは更に高まり、今後、一層大きな災害が起こることが予想されています。

将来に向けて、地球温暖化を防止し、気候変動などのリスクを低減するためには、全世界共通の課題という認識の下、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素の排出量削減に取り組むことが必要です。

2018年に公表された国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の特別報告書において「地球の平均気温上昇を1.5℃に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることが必要」とされています。

このような大きな命題のもと、私たち一人ひとりが強い危機感を持ち、身近なところから環境に配慮した取組を着実に進め、将来世代に恵み豊かな地球環境を引き継いでいくことは、今を生きる私たちにとってたいへん重要な課題です。

そのために、川越市は、国や他の自治体とともに「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」の脱炭素社会を目指し、市民・事業者・民間団体と力を合わせて地球温暖化対策に取り組んでいくことを、ここに宣言します。



令和3年5月1日

川越市長 川 合 善 明